

附章 相ノ山遺跡採集資料

相ノ山遺跡の石器

高橋昭治
武田良夫

遺跡

ここで遺跡名を『相ノ山遺跡』と呼ぶのは、遺跡発見者である高橋昭治により『岩洞湖G遺跡』とされ、前報告者熊谷常正により『大橋遺跡』と呼ばれた遺跡と同一の遺跡のことである。このように呼び名にこだわるのは武田の持つ思いによるものである。大橋とされたのは、相ノ山の西対岸にある旧小本街道に係わる二基の一里塚の名に由来するものであろうが、同地に至る岩洞湖面からの上り口に、洗い出されたロームの面に黒々と記された旧街道跡から推測すれば南西に横たわっていた沢状地形は、西に位置する姫神山に向かう最大規模の沢であり、ここから注ぐ流れはこの地における比較的大きな流れとなって注いでいたものと思われる。未確認ではあるがここには流れを渡る最も大きな橋があったものに因む名称ではないのか。その橋も他に見られる立派な工作物とは異なり、いわゆる『柴橋』のようなものであったかもしれない。相ノ山遺跡はことは湖面に隔てられた相ノ山の南西斜面下部にあり約30年前高橋昭治により発見された。遺物を一見した武田は細石刃の数の多さに眼をみはり、石核が未発見なので、この探索に意を注ぎ全体像の追求をすることを提案した。それが高橋昭治の勞と慧眼に報いる最良の方策であると思われたからであった。

その後高橋昭治の所蔵する遺物は他に寄贈され観察の機会は失われた。遺跡の地は湖面汀線に沿って洗い出された礫が全面を覆っていた。その礫をかきわけ遺物を捜すのであるが三十年間に約30点ほどの遺物が採集出来た、だから量、数ともに微々たるものと言える。しかし、新しい資料はそれまでに確認されていなかったものを含み、改めて紹介する価値のあるものであると判断された。

地層

遺跡地は湖に面して1m程の小崖となっていて、下層にチャートの礫層が認められる。しかし、地層に手を下し削り出し確認することはなかった。僅かに汀線に添ってローム層が露出し残るのが見られ、部分的な地層観察が可能であった。傾斜角10度ほどの地層は上部から小石川遺跡で『クリームパミス』と呼んだ白色の軽石が含まれ、その下に5cm程のやや締まったローム層がありこの層から細石刃を産出するのが小数例見られた。

この下の層は締まりはややゆるやかな無遺物のロームが続き下部に向かいチャートの礫が増加し数cmほどして礫層に移る。だからクリームパミスの層を鍵層とするなら細石刃は小石川遺跡の尖頭器の層の下部にあるとするべきかもしれない。しかしクリームパミスの地層は薄く張り付くように部分的に存在し、斜面全体に拡がっているのではなかったから、ここでは断定を避け今後の観察に期したい。

遺物

細石刃

泥岩質の細石刃は細く長いものがほとんどであり、中にはマッチの軸木程の太さのものがあった。加工の方法は同一の細石核から作られた済一性があり、背部の棱も1又は2本のものがあり折損したものの多さは、意図的な加工より細石刃作出の際折れるものの多さが伺われる所以であった。

細石核

主たる石核は、湧別技法を示す船底形の2点であり、1はチャートにより、他の1は泥岩質石材を素材としている。ともに上部に甲板状の成形がなされ、舳先右端から数条にわたり細石刃剥離がなされている。チャートの

細石刃は未検出であるが、泥岩質の石核は多数発見されている細石刃と同系統の素材と見られる。また断面形がD字形をなし、先端に搔器加工があり上部に直角に彫器を思わせる剥離を施した厚手の剥片は、上部を横断するかのような調整から『峠下技法』との関連も伺われるものがある。その他石核の残核かとみられる柱状の剥片があった。

彫器

チャートを素材とした彫器は、先端より下部にむかう剥離が大きく蝶番状に湾入して縦型に加工され、頁岩製のもの2点は先端に細かい剥離加工を加えその部分から斜めに小さく彫器加工を加えている。頁岩製の一点は小型の剥片を同様に細部加工の部分から斜めに彫器加工を加えていること、表面に左右に丁寧に押圧剥離を加えていることから、荒屋型彫器と判断されるものであった。

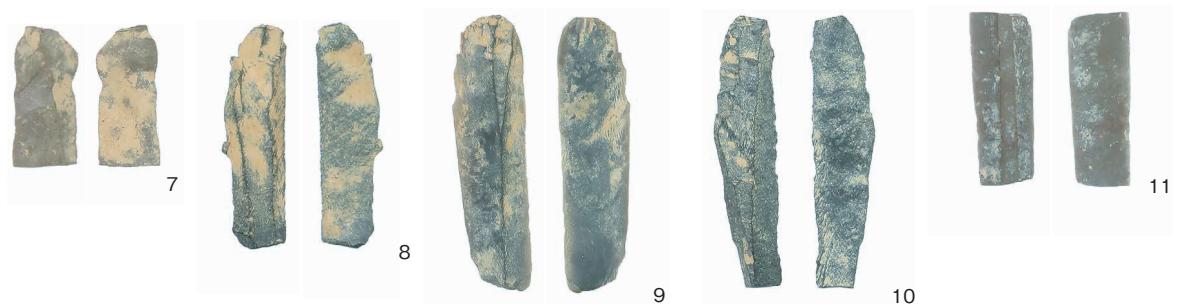
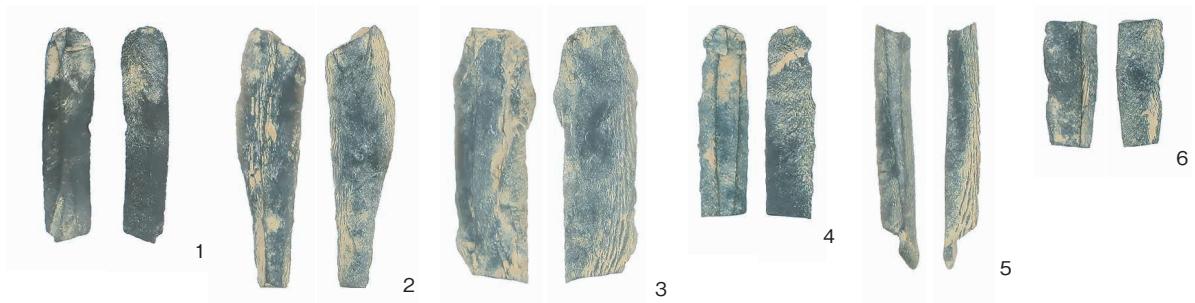
石材の移動

小石川遺跡に見られた緑色をおびたチャートは、遺跡のそこここの沢などに散布するのが見られる。しかしそれらは材質が劣っていて出土遺物の素材には及びもつかない。良質のチャートは近傍の珪岩採石所にも産出が見られるところから、知られていない露頭が存在することが考えられる。細石刃を作る泥質の素材は、久慈市山形町沼袋遺跡の谷底にみられる頁岩に共通するものがあるのは注目される。近似素材には近傍に産出地のあることから、ここからのものが採集使用されていることが考えられる。

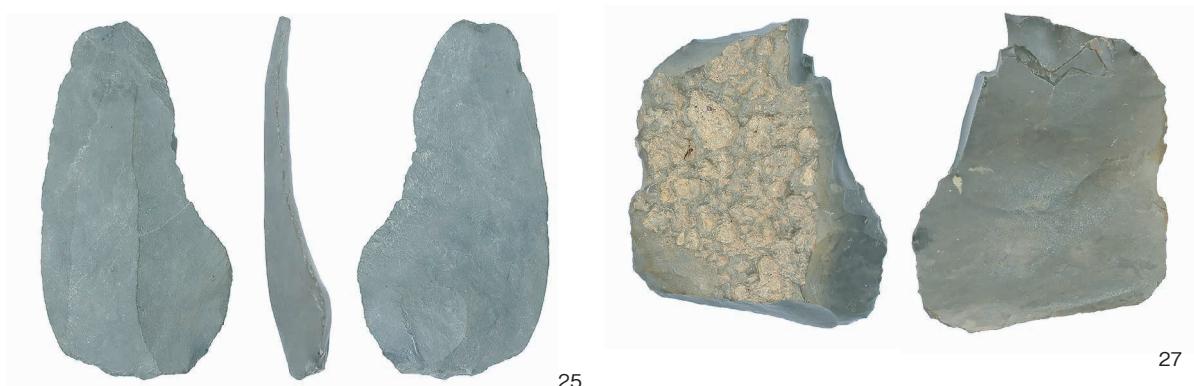
岩手県内に細石刃の遺跡は大台野遺跡に角柱状の石核により作られたものがあり和賀町の遺跡出土のもの北上市付近のいくつかの遺跡などいくらかの類例はあげられるものにホロカ型石核に関連するもの他に円錐形のもののあることが知られている。しかし、湧別技法に直接関連あるとみられるものの存在は、管見にのぼるもののが知られていなかった。予測されることは、現在の知見から推測するなら微弱なものであっても北上山地を南下するルートがあり、相の山遺跡の資料はこれを語るものとすることが可能と考えられる。しかし湧別技法の細分に関しては知るところは多くないのでこれ以上語ることはできない。説明に実測図をかかげるべきものであるが、老境の今の視力で細部を描くことは不可能なので略図と写真により述べることしたい。

番号	器種	材質	形状	長	幅	厚	
1	細石刃	M	完形	2.1	0.5	0.15	バルブあり
2	〃	〃	〃	2.5	0.65	0.15	表左部フィッシャー多 バルブあり
3	〃	〃	〃	2.4	0.7	0.15	裏バルブ フィッシャーあり
4	〃	〃	〃	1.5	0.32	0.1	稜2条 バルブあり
5	〃	〃	頭部欠	2.32	0.33	0.15	稜2条
6	〃	〃	頭先欠	1.22	0.5	0.2	中央部分
7	〃	〃	頭部欠	1.2	0.55	0.15	
8	〃	〃	尾部欠	1.72	0.43	0.1	稜2条
9	〃	〃	〃	2.6	0.6	0.15	頂部調整痕あり クリームバミス直下
10	〃	〃	折損	2.53	0.55	0.15	右辺に微細加工
	(-B)			0.65	0.3	0.15	
11	〃	頁岩	頂部欠	1.4	0.5	0.15	稜2条
12	〃	〃	〃	1.1	0.45	0.1	中央部分
13	〃	〃	尾部欠	0.7	0.4	0.15	〃
14	〃	〃	中央部	0.5	0.6	0.1	小破片
15	チップ	珪岩	小剥片	0.9	0.75	0.1	
16	剥片	M	横長剥片	4.1	2.0	0.3	バルブあり 頂部表面フィッシャー
17	〃	頁岩	縦長	1.7	0.7	0.2	半折
18	小石刃	〃	半折	3.6	1.2	0.5	尾部欠 2012.9.26
19	〃	〃	〃	3.1	1.0	0.5	尾部欠 表面に摩滅痕
20	剥片	〃		4.1	2.0	0.4	側縁に小加工痕
21	石核	珪岩	三角柱状	1.25	0.8	0.45	縦位の剥離痕5条 残核か
22	〃	〃	船底状	8.7	5.7	2.7	甲板状上面 右より剥離
							右面全面左方より剥離
							左面 未加工原面
							頭部 上部から細石刃剥離
23	〃	M	〃	7.9	3.6	1.5	上部甲板 尾部より一回の剥離で作成
							頭部 縦2条の細石刃剥離
24	彫器	珪岩	石刃状	4.3	2.1	0.6	裏面に加工なし
							彫刻面は縦1条に剥離
25	〃	頁岩	石刃状	7.0	3.7	0.9	打面入念に細部加工
							ここを打点として彫刻面を剥離
26	〃	〃	縦長剥片	2.2	2.1	0.4	頂部右側に細部加工 ここを打点として彫器加工
27	搔器	〃	剥片を加工	5.2	4.2	1.3	表面の大部分は自然面 下部左辺に搔加工
28	〃	〃	周辺加工	7.2	4.4	1.1	
29	搔器	頁岩	剥片加工	10.1	7.8	1.2	先端部裏面より10回以上加工
30	小石刃	〃	石刃状	4.3	2.1	0.6	頂部に細加工
31	搔器	〃	大型	4.8	4.1	1.4	上面打面調整
32	剥片	珪岩	基部欠	3.9	2.7	0.7	下部曲部に使用痕
33	〃	頁岩	茶褐色	2.8	1.9	0.3	裏面にリングあり
34	〃	〃	黒灰色	1.6	2.3	0.6	バルブ痕大きい
35	石片	珪岩	船底形	4.5	2.2	2.1	加工痕はやや不明瞭
36	〃	〃	〃	3.9	3.2	1.1	〃
37	〃	〃	〃	3.3	2.7	1.8	〃
38	石鏃	頁岩	無柄平基	3.6	1.3	0.3	先端欠 両面とも左右から剥離
39	尖頭器	〃	先端部	2.2	1.4	0.7	石槍の破片か
40	土器片	口縁部	織維含	3.3	4.5	0.8	裏面横なで 平縁
41	〃	体部片	織維含	3.0	4.9	0.6	斜縄文 裏平滑に調整
42	〃	沈線文		3.7	7.0	0.65	織維含まず 物見台式か

相ノ山遺跡 採集遺物 一覧表



相ノ山遺跡採集石器(1)



相ノ山遺跡採集石器(2)



28

30



29

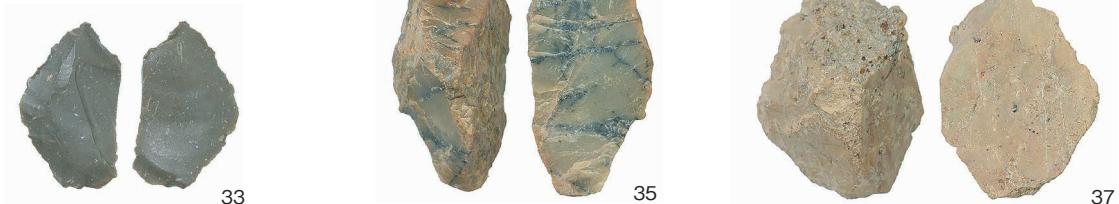
31



32

34

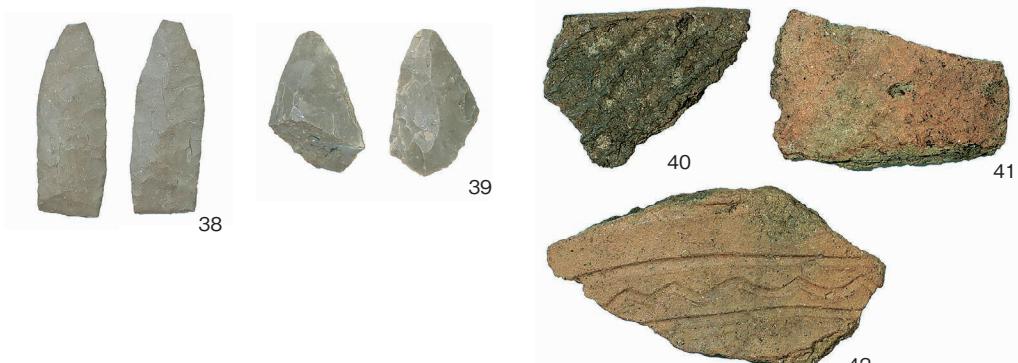
36



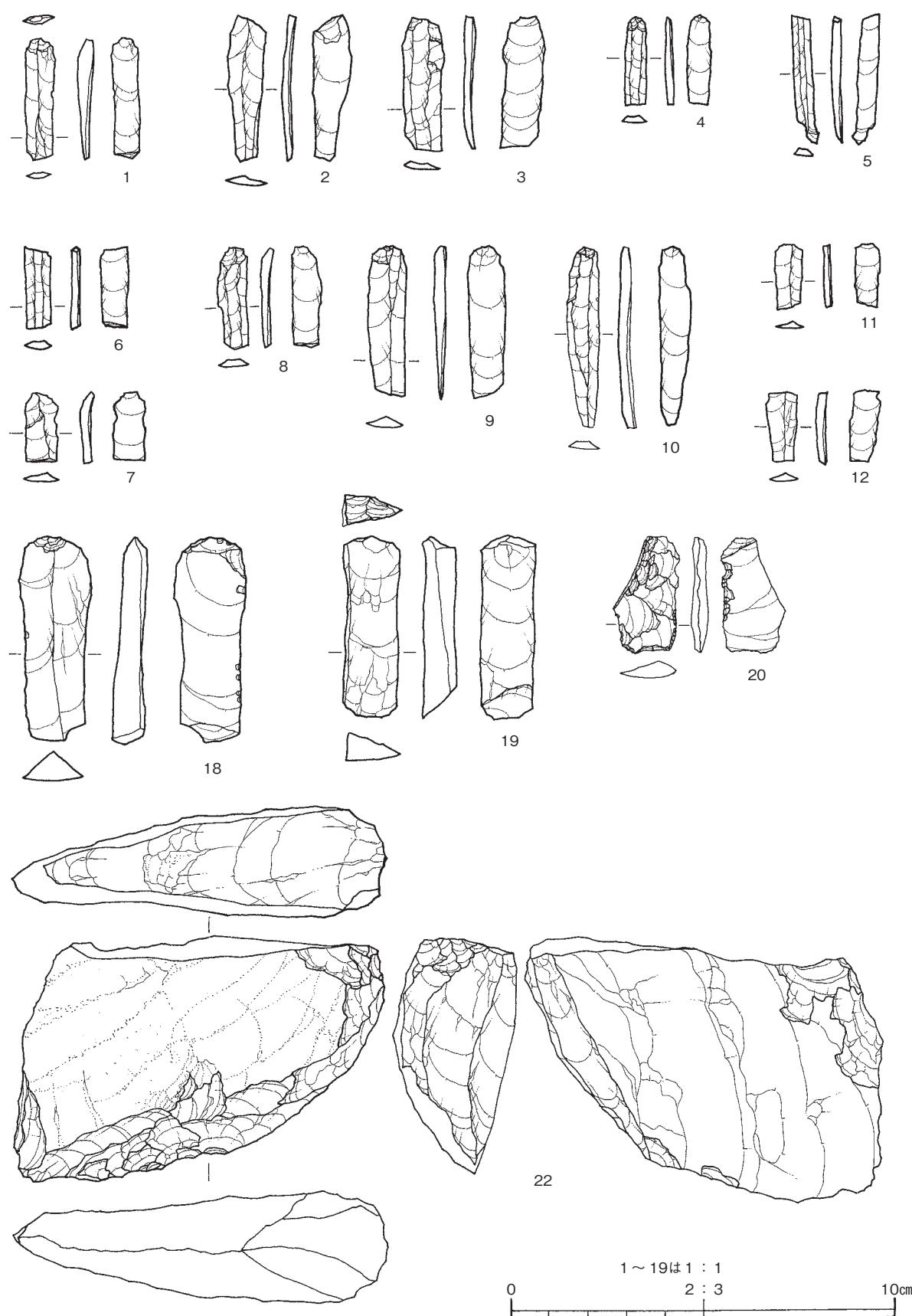
33

35

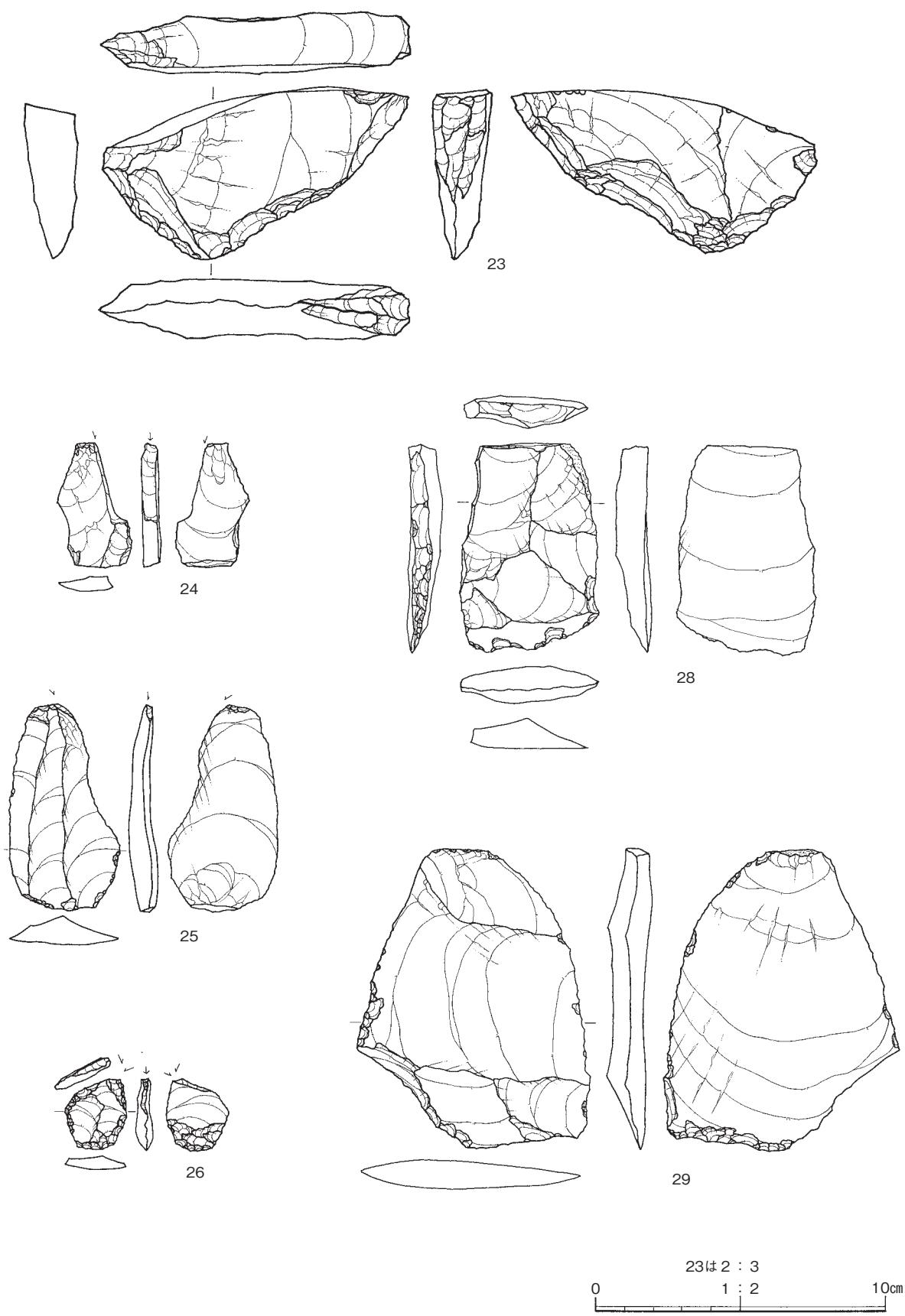
37



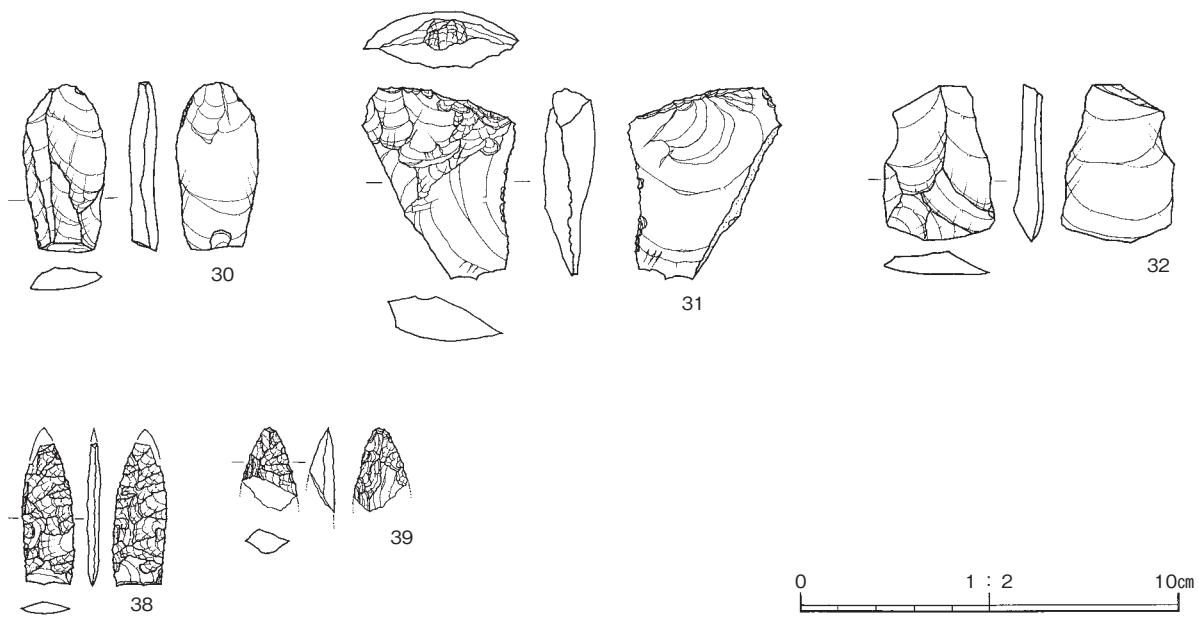
相ノ山遺跡採集石器(3)・土器



第9図 相ノ山遺跡採集石器(1)



第10図 相ノ山遺跡採集石器(2)



第11図 相ノ山遺跡採集石器(3)